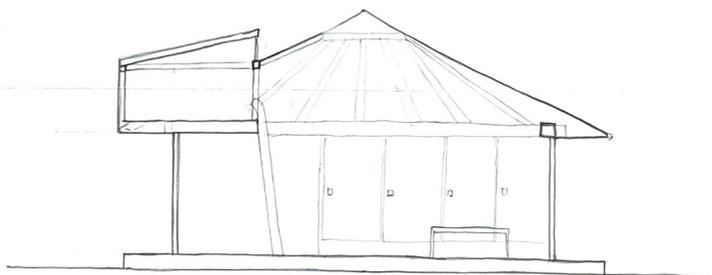


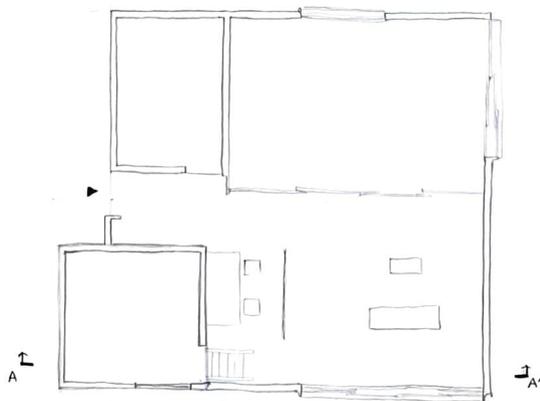
現状の平家では、1人になることができないため、
屋根の一部をバーソナルスペースとして増築した。
ドアはとりつける、1階と通気とすることで、視線
や存在感は遮断しながら、音や匂いの
匂いは感じられるようにした。



南立面図 S=1:100



A-A' 断面図 S=1:100

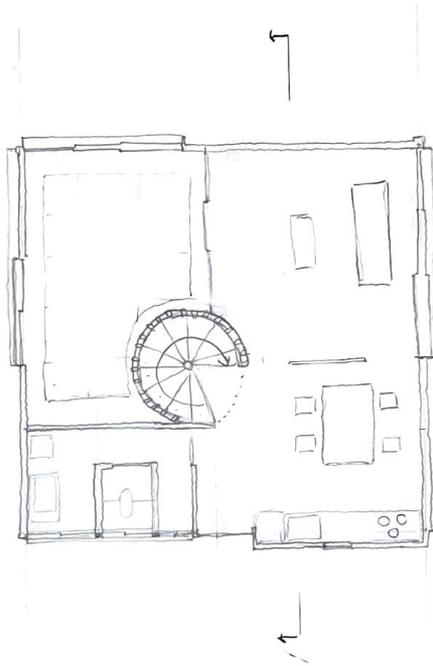
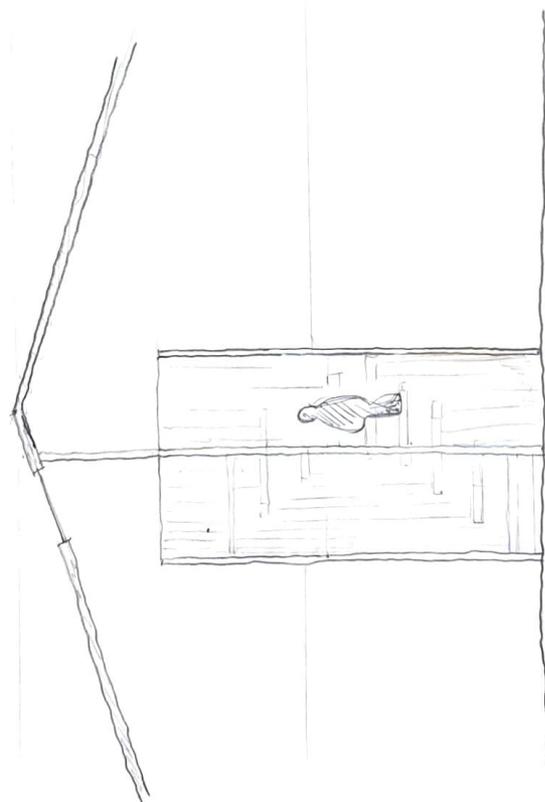
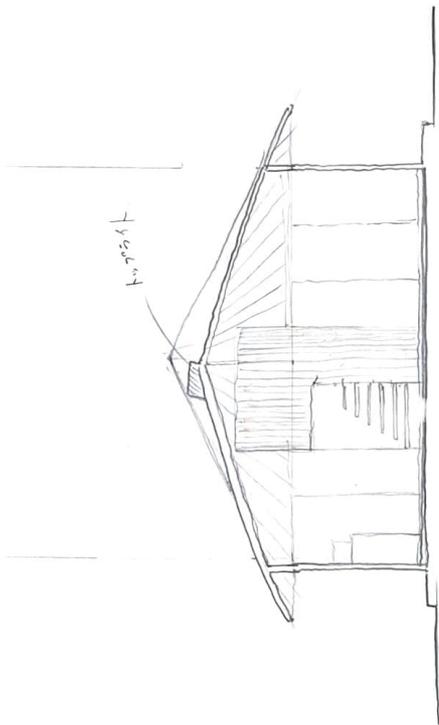


平面図 S=1:100



階段室の家

山

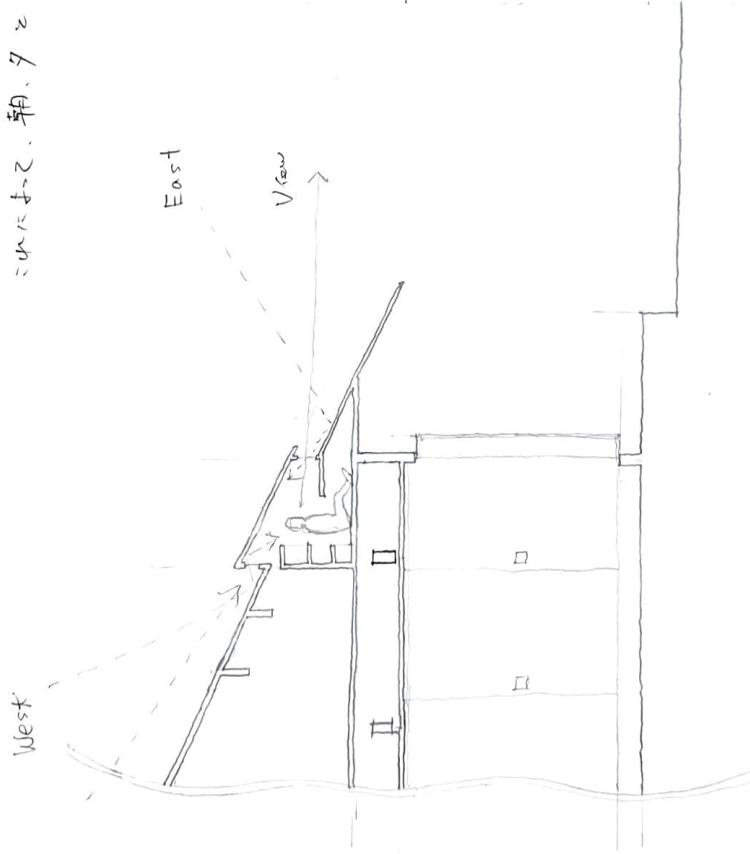


中心の階段室にルバーで囲子
階段室を作る人が世に
知られてくる

『独りの部屋』

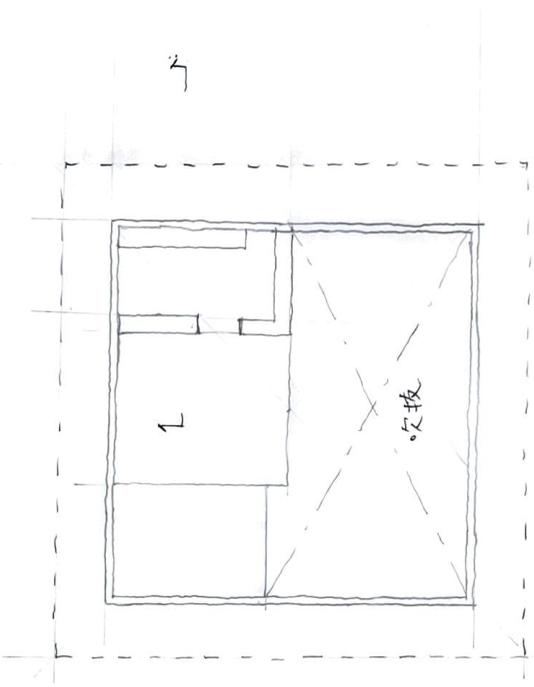
規序の和室の天井裏、東側に増築する。
 規序の居間の高天井のすわがけの空間との
 対比として人が座って使う閉じた空間である。
 増築部を東側に寄せ、屋根を少し持ち上げる。
 これにより、朝、夕と自然採光を取り込む。

7-11-1の各からこの家に読書、作業スペース
 とし、閉じた独立の部屋を増築する。



部分断面図

1/50



GL + 3.300 平面図

1/100



土間付いた「かす傘の家」

B4. 小川 隆成

かす傘の家は、幾何学で構成され、平面は正方形と形が強い。それにより、建築内に閉じた世界を形成しているように感じる。そこで、今回は、強い形を崩し、世界を外に拡張することを考えた。そのための操作として、畳室、居間の家族におけるオープンスペースに土間を挿入した。

